

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



誕 (教祖誕生日)

初代の心にかえり信仰の喜びを

深めよう 伝えよう 広げよう

- 一、持ち場立場で日々理作り
- 一、家族揃って教会参拝
- 一、一日一件にをいがけ

立教174年  
4月号

# 記念祭大要を検討

## アトラクションは実施

創立120周年  
実行委員会

大教会創立120周年実行委員会(田中一之委員長)は3月29日、午前8時半から約2時間、大教会会議室で大教会長様、奥様、同実行委員ら20人が出席して3月定例会議を開いた。記念祭に向けての具体的な打ち合わせに入るため今回は大教会長様、奥様が出席され、記念祭の大要が話し合われた。

会議には今回から新たに、一手一つに各部の協力を得るため同委員とは別に管理部、青年会、かさおか編集掛の代表が加わった。

冒頭、田中同委員長は、「記念祭まであと8ヶ月。準備の実動に入った。当日前後のスケジュール、役割などについて具体的な相談を進めていきたい」と挨拶。

引き続き大教会長様は「記念祭に向けての仕上げの年の最中、大震災という大節をお見せ頂き、改めて喜び、感謝の心に加え、たすけ合いの心の

大切さを感じる。記念祭への歩みは進めさせて頂いているが、今度は記念祭そのものをどういう風にするかということになってくる。

基本的には、おつとめ、式次第、真柱様ご夫妻をはじめ来賓の方々の接待、そして参拝者にかに喜んで頂くか—ということになる。大節の後なので、どういう内容にするかという事を皆さんで相談され、記念祭が教祖130年祭の歩みにつながる意義あるものにして頂ければありがたいと思っている」と話された。

この後、上原繁道同委員から、創立110周年のタイムスケジュール、また問題点などを参考に120周年全体の流れの案が説明され、各項目についての検討に移った。

主な内容は次の通り。

- 真柱様ご夫妻、来賓の方々の接待、送迎方法など
- 記念写真(おつとめ奉仕人のみか、参拝者全員か、場所など)
- 弁当、飲食(価格、業者、飲酒など)
- アトラクション(会場設定、設置、雨天時対策含むなど)
- 模擬店(種類、震災のためのチャリティーバザー、義援金箱など)

### 大教会本年心定め

- 初 席 者 数 279人(21人)
  - よ ぶ ぼ く 数 217人(13人)
  - 修養科修了者数 135人(1人)
  - 教人登録者数 114人(0人)
  - 参考) 教人資格講習会 (1人)
  - 教会長資格検定講習会 (1人)
- (括弧内は1月1日~3月31日)

記念祭までに心定めを完遂するよう  
つとめさせていただきます

去る3月11日発生した東日本大震災に伴い、記念祭のアトラクションや催しを中止、変更する教会もあるが、笠岡は現時点でアトラクションは実施する予定。

次回は4月20日に開かれ、より具体的に検討される。

同委員会は立教171年(平成20年)9月20日発足。記念祭に向けての活動指針、それに伴う行事など立案、毎月、定例会議を行っている。委員は16人。



## 詰所に一時避難

東日本大震災 被災者

去る3月11日発生した東日本大震災で被災された笠岡大教会関係の人たち8人が、3月11日から4月3日まで笠岡詰所に一時避難した。

大教会では、今後、希望があれば部内教会関係者を対象に受け入れる方針。また本部から要請があれば許容範囲で受け入れる。

## 東日本大震災の

### 募金・救援物資について

3月の月次祭前より大教会で救援募金と救援物資の受け付けを始めました。3月22日に笠岡の教会として140万円を、4月4日に個々の教会からの募金、個人の募金、さらに大教会設置の募金箱に入られた募金で5万474円が道友社に届けられました。また救援物資は被災地復興のニーズによって内容が変わってくるため、25日までに届けられた善意のお米、下着、ティッシュペーパー、トイレットペーパー、粉塵マスク、カップラーメン、バスタオル、タオルなどミカン箱にして5、6箱は笠岡に隣接する仙臺詰所に届けさせて頂いた。東

北からお  
ぢばに帰  
参された  
方が戻ら  
れる便で  
被災地に  
届けられ  
た。募金  
や物資を  
寄せられ  
た方々に  
心よりお  
礼申し上げます。被災地にとって微力かもしれま  
せんが、必ず誰かの役に立ち、真実の心は届けら  
れると信じています。



仙臺詰所に届けられた物資

これから被災地のニーズの情報を漏らさず、受け入れを続けさせて頂きます。どうぞ御協力をよろしく願います。

(笠岡大教会救援受付係)

高屋分教会では3月16日から18日まで災害救援募金、救援物資を集め、19日に仙臺大教会に送った。送付は次の通り。

- 義援金 8万523円
- 物資 米 310kg、カップラーメン 27ケース、インスタントコーヒー 1ケース

## 詰所ジュータン新しく

一階玄関、ホール、廊下

かねてからの懸案だった笠岡詰所、一階玄関、ホール、廊下のカーペット張り替え工事がこの程、終わった。

これまでの物は昭和55年、同詰所竣工以来、約30年間使用され、擦り切れや汚れが目立ってきたため行われたもの。今回使用された物は、タイルカーペットと呼ば



見方によっては格子模様が浮き上がる

れ、従来の一枚物と違い、縦横50cm、厚さ6.5mmの正方形で、あずき色のナイロン製。これを縦横交互に一枚ずつ張っていく市松張りという工法がとられた。一見、一面同色に見えるが角度、光線によって、格子模様が浮き上がる。

弾力性もあり歩行も心地よい。最大の利点は傷、汚れ部分だけを取り除き洗濯、交換が出来ること。

これまで約30年間使用出来たのは土足、スリッパでの使用が無かったため、今後も土足、スリッパの使用は禁止となる。

# 温故知新

## いきいきエピソード 2

### 二代会長の海外への思い

二代会長の事を少し話してみたい。今回の東日本の震災で、ふと安政の南海大地震に思いが行き、そう言えば二代会長の実家・島村家はこの震災の津波で壊滅的な被害を被り、その後家業としていた酒造業を復興しようとされたが、

それに失敗しておられる。二代会長、伊助は、そういう家の歴史を持つ高知の島村家に生を享け、縁あって笠岡の上原家に入婿された。兄は島村菊太郎氏で高知大教会初代会長である。兄弟とも頑健であって、特に二代会長は二十一歳から暫くの間、大阪の西警察署に警察官として勤務していた。当時、明治十八年頃であるが、備後屋佐助「備佐」の屋号で長堀川中橋南詰で畳表商をしていた上原家をよく知っていたという。上原家入婿は明治二十五年である。

明治三十九年十二月十八日消印の伊助の手紙一通がある。兄・島村菊太郎氏に笠岡から宛てたものである。

拝啓 寒氣日増に相 加り候折柄兄上様 初め御一同様 御壯健に御渡 被遊候哉御 伺 申上候 却設爾来は誠 に御無沙汰計 里 御許し下され度 過般来上和之際 御相 談申上候 渡米一条に就き 旧去月十四日よ り三日三 夜連続(大祭中にして) 会議致候 ところ 今辞職する等 の事有之候とは 整 理上到底會 員の耐へ得べき事 にあらず 云々(今回の會議 にて一同精神の発展は無 く)に如何に相談致候 も却て一時破綻 の 憂有之更に御嗽 申候通りの強硬 なる

決心も涙を呑 むで中止せねばな らぬ事と 相成爾 来必死の整理運 動致居候然して 調金法に就き講 會を組織中随分 見込も立 ち目下部 内交照中兎に角 前陳之通故御 承引下され度尚會 員の方々より実兄様 及 東上原様へ 懇々御相談致度 近日上和此旨 本 日申来り居候間 其節は何卒萬 事御相 談願いて 委細は後便先 は右要ののみ 勿々

十二月十八日

実兄様

伊輔

昔の先生方は手紙を巻紙に墨書して、大 体一行に十文字書いてあれば良い方で、上原佐 助氏の手紙を伊賀上野の川合家で見た事がある が、まことに雄渾な大きな字で一行に精々四文 字くらいであった。先の引用の手紙の文章の間 を空けてあるのは一行分ずつ、巻紙に書いてあ る通りに起こしたからである。明治三十九年と いえば、教祖二十年祭を二月十八日に終え、教 内ではどこの教会も膨大な借金を抱えて四苦八 苦の頃である。「おじいちゃん、何考えてはん ね。教会長でありながら、何でアメリカ行きな んや」と言いたい処である。ところで、この頃

日本政府は盛んに海外移民を奨励していた。笠岡部内でも、その世論にのって、海外に出て金を得て、何とか教会の経済的窮乏を救おうという思いが、若者の間にあったようである。例えば、教会にあるのは田中所長と借金だけの噂がたったと言われる福山では、若者五人が海外渡航の案を練り実行に移し横浜まで行ったのだが、身体検査で不合格となった。また高屋では明治三十九年、先年新築した住家を売却して教会の経営にその費用を充てた。その中、後に初代・清治郎氏の出直しを受けて二代会長となる武内敬市氏はアメリカのシアトルに出稼ぎしている。

笠岡の二代会長はこうした部内の厳しい状況に身も心もいたたまれなかったのではないかと思われる。

経済的窮状からとはいえ、海外への雄飛の思いは本教を信仰する人にとっては、常に海外布教の思いと相俟って有った。当初は韓国、台湾あるいは東南アジアへの思いであったものが、ブラジル、アメリカへと向かい、今ヨーロッパ、オーストラリア、アフリカとなってきたように見える。

私は二代会長から菊太郎氏宛の此の手紙を拝

見して、笠岡の道にも海外布教への熱い思いは古くからあったのだと感じている。未だ笠岡の海外名称はないとはいえ、現在所属のよふぼく、信者は南北アメリカ、台湾、アフリカに点在している。百二十周年を一つの機として進ませて頂かねばと思う。

二代会長・伊助の思いは、孫の代に開花しているようである。隔世遺伝と言うのだろうか。二代会長存命中に誕生している孫は道雄(大正五年)と雅志(大正7年)の二人で、道雄は天理外国語学校在学中、選ばれてアメリカに短期間であるが出向いている。往復は船であった。四男・豊明と八男・眞雄は大学教授としてまた商社マンとしてアメリカ暮らしである。七男・祥雄は防衛省からアメリカに留学している。

先人の一つの思い、それを単なる昔話にする事なく教会の一系列救いの歴史を創りながら歩んでゆくのはお道ならではの楽しみづくめの業ではないかと思う。なお三男・郁雄は、長男戦死、次男夭折の後、二代会長の孫達七人の束ね役として四代会長をつとめたが、その誕生日は二代会長出直しの丸一年後である。私はそこに二代会長の魂の生まれ替わりのような奇しきいんねんを感じるのであるが……(笠岡史料部長)

## ・原・稿・募・集・

**内 容**

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介  
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

**字 数**

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は1句からでも結構です。

**寄 稿 先**

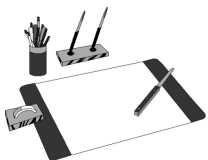
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X：0865-66-1314

メール：[tenkasa@yahoo.co.jp](mailto:tenkasa@yahoo.co.jp)

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。





# 台湾の道を次の世代に

## 繋いでいく努力を!!

台湾巡回報告

海外部

3月5日より四日間、台北地域に住まわれる笠岡に繋がる信者さん達を訪ねてきました。今回の目的は、今年11月30日に行われる大教会創立120周年記念祭に台湾の信者さん達にも参拝を呼びかけることと大教会長さんの思いを伝えるため、また行った際におさづけを取り次がせていただくことでした。

昨年の婦人会創立百周年に海外からの婦参者のつどいを詰所で催しましたが、是非現地にきてほしいとの声があったことを受けて実施したのでした。二日目の朝から夜遅くまで11軒のお宅を訪ねて、大教会長様のメッセージを伝えました。といっても、上原志郎部長も私も中国語は全くだめなので、台湾伝道庁で数年勤めて今は本部の海外部で勤



### よふぼく家庭を訪問

務している廣町分教会所属宮本氏の力を全面的にお借りしました。運転は台湾人用木の張永昌氏がずっと引き受けて連れて行ってくれました。この二人の協力が無かったら、巡回しても何ほどのことも為し得なかったでしょう。有力な人材をお与え頂いたことに、親神様教祖の親心を感じると共に、台湾への道がつくことを常に願っておられた三代会長様の御霊が後から応援してくださっているようにも思えました。

現地用の木もかなり高齢化しております。行く先々でおさづけを取り次がせて頂きながら、集まった家族の人々が共に神妙に祈り、出向いていった私達に感謝し、歓迎してくれたことをとても有り難く思いました。これは、いろいろな事情の中、途切れることなく台湾に足を運んで丹精に努めて下さった福山分教会の前会長田中先生はじめ沢山の先輩達のお陰です。

感心したのは台湾の若者が親や祖父母を大切にすることをどこでもみかけることでした。又、現地で日本語を教えながら布教している

他系統の青年を訪ね、その真面目な信仰姿勢と熱意に心を打たれました。このような姿勢があれば日本でも海外でも道は必ず開けます。伝道庁をお訪ねしたとき三濱庁長も笠岡への期待を述べてくださいました。

言葉で四苦八苦して、今更ながら勉強不足を申し訳なかったと思いつつも、お会いしたほとんどの方が記念祭への帰会の思いを聞かせて下さった実りのあった今回の巡回を無駄にしないよう、これからの台湾の道を次の世代に繋いでいく方法を相談し合っていくことが重要だと思えます。

(海外部員 上原 順子)



伝道庁を表敬訪問

# 台湾巡回に参加して

廣町分教会 宮本 正明

このたび、3月5日から8日の4日間で行われた台湾巡回に参加させていただきました。

巡回を思い返す時、無事日程を終えることができ、大きな緊張・プレッシャーから解かれた、そんなほっとした思いです。

私の知っている限り、できる限りのことをさせていただこうとの思いから、準備と巡回同行をさせていただきました。



老人ホームを訪問しておさづけを

1日半といった限られた時間でできるだけ多くの人に会えるようにとアポイントをとった結果、台北市・基隆市の信者宅や施設の9カ所ほどをまわり、お話し、おさづけの取り次ぎをさせていただきました。

言葉のわからない、予定も何度も変わる、昼のおやつ時にテーブルいっぱいのお食事がでてくる等々の中、誠心誠意つとめておられた上原志郎先生、上原順子先生には頭の下がる思いがしました。

この巡回に参加したからこそお会いできた信者さんもありましたし、見ることができた光景があり



よふぼくの方々との食事

ました。久しぶりの再会に涙を流しておられた江(布教所長)さん、寝たきりになったと聞きながら十数年お会いしていなかった張さん等々。すべては、この旬に親神様、教祖が会わせてくださったものとただただ感謝しております。

18年前に笠台布教所青年として台湾に渡航して以来、与えられた環境の中で台湾関係の御用をさせていただいてきましたが、また新たな思いでまた台湾の道に携わっていきけるような気がしました。

どうもありがとうございました。



布教所長さん家族と



## 明日への一歩を

### 踏み出そう!!

学生会

春の学生おぢばがえり

立教174年「春の学生おぢばがえり」が、3月28日(月)におぢばで開催されました。午前9時より行われた式典で真柱様は「東北関東大震災」を台として、教祖の教えを信じる私たちと「教祖のお心との間に隔たり」が生じていると指摘され、「お互いに自らを反省し、教祖のお心をもっともっと深く噛み分け、これまで以上に教祖の思いに近く努力を重ねなければならぬ」と学生に求められました。(天理時報4月3日号参照)続いて11時より15時30分まで詰所で「直属アワー」が行われ、何と7教区から過去最高・46名の学生(担当委員6名)が参加してくれました。内容は管内の学生が初めて企画し、大教会長様のお話、昼食、そしてボーリングにも出かけ、限られた時間でしたが参加者同士が親しくなれたように感じました。模擬店で「ひるぜん風焼きそば」を出店予定していた後夜祭「春まつり」は、大震災を踏まえ取りやめとなり、東泉水プール前広場を会場に17時20分から全体行事「明日へのつどい」が開催されました。これは今回の節を我が事として捉え、今の自分に

何ができるかを考え、明日への一歩を踏み出すことを目的としたもので、その後神殿(東礼拝場)へ移動して、被災された方々のたすかりと自らの成人への誓いを込めて本部夕づとめを参拝させていただきました。尚、参加者の中で5名が別席を運びました。

## 春の学生おぢばがえりに

### 参加して

笠岡学生担当委員 豊田 宏哉

今回、東北関東大震災という、未曾有の大災害の直後に、行われる事になっていたので、正直、「昨年のように学生達は集まらないだろうなあ」と、一人考えていたのに、ふたを開けてみれば、昨今無い程の学生達! しかも、昨年とは違い、学生の側から案を出してくる積極さ!! これこそ学生会なんだろうなあ。まだまだ捨てたもんじゃないなあと、感心した所から始まった。

本部の式典では、礼拝の後、若さあふれる開会宣言。総立ちでの「よろづよ八首」奉唱。委員長挨拶の後、真柱様の暖かいお言葉を頂き、二人の代表学生の道への思いの発表、端で聞いていた初老の男性は、目頭をおさえて感動の涙を流していた。

「Let's go back together」を肩を組み、歌う

姿は、正に世界一れつ兄弟の言葉にふさわしく見えましました。

この式典の熱を持ったまま、笠岡詰所の直属アワーへ。少し自己紹介をかねたゲームの後、大教会長様のお話。

「今回の大震災は、実は親神様が一年前から小さなしるしを見せて、しらせて下さっていた。それを我々は親神様の知らせととる事が出来なかった。『人をこらしめてやろう』『くるしめてやろう』ではなく、親の心を知らせようとして下さっていたのだと。全ての子供、我々人類は、親神様の、ざんわりいふくをよく思案しなければいけないと、出来る子も、そうでない子も、良い子も悪さをする子も、親神様には全て可愛い我が子であり、その我々が助け合い喜び合う事こそが、親神様の言われる陽気ぐらしであると。

どんな人でも、人を助ける事は出来る。お金なんて無かったって、笑顔であったり人を助ける事は出来る。少なからずみなさんにはその事を知ってほしいと、ほんのささやかな、助け合いの心を、みんながもち続けられれば、どれ程、心が豊かになれるか。心一つで、言葉一つで、豊かな生活を迎える事が出来る人ではないだろうか。みんなが喜び合い助け合う世界を、親神様が思われているのではないだろうか。

一番大切なのは、日々の生活の中での助け合い



の心です。立派な大人に!!道の教えは親の教えです。人を助けるために必要なのは、あなた方なんです。この道は、助かるための道ではなく、助けるための道である。おつとめも、人に助かってもらうためのおつとめである。人の心は神が変えたのではなく、人が変えたものであり、また、人を良い方向へ変えていくのも、人にしか出来ない。その事を一人でも多くの人に伝えてもらいたいがためにおちばに寄せてもらっている。親神様は、



若さバクハツ!

過去最高の46人が詰所に終結

あなた方のこれからの成長を楽しみにしておられる」との話を、みんな真剣に聞いていた。

一転、親睦目的の「ボーリング大会」では、若い学生らしさをバクハツさせていた。

この後、「明日へのつとめ」「夕づとめ」となるのだが、この学生達が手をとり合って、道を歩む姿を想像したら、この世界にも大きな希望が見えるなあと、年寄りじみた考えを持ってしまった。

だが、実際たのもしくはある!

くさあ!ここ、おちばからく このテーマは、我々にも言える、道を歩む者の永遠のテーマではないだろうか。

### たすけ合って

### 日々感謝して通ろう

おつとめまなび総会開催

### 少年会

少年会笠岡団(中島誠治団長)は4月1日、同育成会長様(大教会会長様)、奥様を迎え、大教会でおつとめまなび総会を開催、育成会員を含む508人が参加した。

少年会員による雅楽演奏で祭儀式が始まり、祭主、佐藤孝祐君(芳井分)が「毎日、元気に過ごせるのも親神様のお陰です。立派なよふぼくに育ち



真剣につとめられたおつとめまなび

ます。一手一つに心を合わせて震災被災地の日も早い復興を念じつつおつとめまなびをつとめさせて頂きます」と祭文を奏上。

引き続き、おつとめまなびがつとめられ、座りづとめ、てをどりの各下りをブロックごとに役割りを決めて真剣につとめた。

その後、式典に移り、まず、育成会長様が「総会は成長していく姿と、これからの歩みを親神様、教祖、霊様にご報告するのが目的です。今年は嬉





わかぎ門出式の参加者

しい事がありました。祭文で奏上してくれましたが、大震災で苦しんでいる人達の日も早い復興を願ってつとめてくれた事です。おつとめは、一人でも多くの人にたすかってもらうためにつとめる大切なものです。毎日、無事生活出来る事を親神様に感謝して、皆でたすけ合って通らせて頂きましよう」と挨拶。

少年会の誓い、少年会の歌斉唱。そして「わかぎ門出式」が行われ、中島団長が「少年会員から

学生会、青年会、女子青年へと進んでいく。今まで育ててくれた人達に恩返しをする事です。17歳になったら神様のお話しを聞き、おさづけの理を戴く。そして神様の話をさせて頂き、おさづけを取り次ぐ。これが一番の親孝行です」と激励。門出者24人に記念品を渡した(名前は記事末に記載)。

式典後、参加者はブロックごとに出された模擬店で昼食をとり、講堂で行われたゲームを楽しんだ。また講堂では大震災に被災された方々へ「折り鶴・応援メッセージを届けよう」と折り鶴の作製も行われた。

エコ対策の一環として、各模擬店での割り箸は一人1個とした。

わかぎ門出者は次の通り(順不同、敬称略)。

- 上原成実(大教会) ○武内ゆかり(高屋) ○吉岡あや(興明) ○竹本直紀(福芦) ○永戸亜輝(福芦) ○佐藤洗介(福芦) ○三阪いくえ(福岩) ○三阪良介(福岩) ○山本 栞(福岩) ○掛谷利雄(福南) ○桑山修一(福節) ○深川美咲(坪生) ○吉岡真生(芦田川) ○住川理奈(三郡) ○猪原 笙(真金) ○猪原安以(真金) ○占部萌々花(真金) ○猪原幸一(門司港) ○高島治之(出雲) ○富田幸乃(出雲) ○高橋一朗(亀田山) ○余村玲(多古浦) ○内田絵美(雲東) ○村川陽子(大江橋)



模擬店で楽しい昼食

**鼓笛講習会も**

笠岡団むつみ鼓笛隊は3月30日から4月1日までの2泊3日間の日程で、大教会で鼓笛講習会を開催、約100人が参加した。

参加隊は本隊、福山隊、高屋隊、島根隊。期間中、おつとめまなび総会のおつとめ練習をはじめ、こどもおぢばがえりテーマ曲「みんなきょうだいおやさとへ」また新曲「風をさがして」を中心にパート練習、合奏を行った。講習の成果を、おつとめまなび総会の式典の中でお供え演奏した。

## ◆教祖誕生祭お帰り講話

布教部

- 【と き】 4月17日 19時～  
 【場 所】 詰所大広間  
 【講 師】 加藤 芳 樹 先生(中河部属大海理分教会長)

## ◆毎月ひのきしん

青年会

- 【と き】 4月24日(日) 午前中のみ  
 ※3月20日実施=参加者36人  
 客殿鉄柵の錆止め塗り、参道外側の整備、災害義援金、お願いづとめ

## ◆本部食堂ひのきしん

布教部

- 【と き】 5月1日～15日(福山ブロック)

## ◆おぢば管内の学生の集い

学生担当委員会

- 【と き】 5月8日(日) 午前10時～  
 【場 所】 笠岡詰所  
 【内 容】 親睦行事(昼食・おたのしみ行事)  
 参加費なし

## ◆縦の伝道講習会

少年会

- 【と き】 5月21日(土) 祭典講話として  
 【場 所】 大教会  
 【内 容】 縦の伝道の大切さを分かりやすくお話し下さいます  
 【講 師】 少年会本部委員  
 【対 象】 隊育成会長(会長さん)、隊育成委員、布教所長、ようぼく、信者。

## ◆おやさとふしん青年会ひのきしん隊

青年会

- 【と き】 6月1日～24日(14人での入隊目指す)

## ◆別席ひのきしん団参

実行委員会

- 【と き】 6月25日(土)～26日(日)  
 【内 容】 25日 13:00 神殿にておつとめ、別席  
 終了後 境内地ひのきしん(雨天時は回廊拭き)  
 19:00 記念講演(詰所)  
 講師・川島一郎先生  
 (甲賀大・勢津<sup>せいしん</sup>分教会長・三日講習会講師)  
 26日 午 前 本部月次祭参拝  
 午 後 別 席



## 三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから」とこの世と人間世界をお創造下されただけでなく、天然自然のお働きと身体を御守護下されております事は誠に有難い極みでございます。しかるに人々はその有難さが分からないどころか、私利私欲に走り親子兄弟の中でさえ苦しめ合っています。「かみなりもぢしんをふかせ水つきもこれは月日のぞねんりいふく」とお聞かせ頂きますが、このたびの東北関東大震災では犠牲者や被災者が出てしまった事は申し訳なく残念でなりません。只その事によって被災者はもとより日本国内、そして世界中へ救け合いの輪が広がっています。事は誠に心強い限りでございます。お望み下さる心遣いはその事なのだと思わせて頂きます。世界の人々に先んじてお引き寄せ頂きました私共は、御恩報じを念じて日々は朝夕にお礼申し上げ、救かりたいから救かつて貰いたいとの心を人々に写すべく理作りに励み、たすけ一条の御用の上に励ませて頂いております。

その中にも今日の吉日はお許し下さいました御祭日でございますので、只今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心に加え被災された方々の一日も早い復興を願って明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて、三月の月次祭を取り行わせて頂きます。御前には今日の日を楽しみに寄り集いました理に繋がる道の子供達が同じ思いに伏し拝み、尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますよう御願い申し上げます。

さて大教会創立記念祭まであと八ヶ月余りとなりました。一月には直轄教会へ二月三月には部内教会へ巡教させて頂き先々に至るまで成人の歩みの徹底をさせて頂きましたが、今度の未曾有の大災害の節を生き節にすべく、改めて人間の力が及ばない事を知り、謙虚に親神様の懐住まいである事の喜び感謝の心を深め、一日一件にをいがけを通して日常の中でのたすけ合いの大切さも伝えて行けるよう一人一人がしっかりと救け心を磨き、真に親神様教祖にお喜び頂けるたすけ一条の御用に邁進させて頂く所存でございます。

何卒親神様にはお見せ頂く大節にも心倒さず、励みにかえてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受取り下さいまして、万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜り、たすけ合いの心が広がり被災された方々が一日も早く復興されますよう御守護お導きの程を一同と共に慎んで御願い申し上げます。

## 第842期修養科募集要項

### \*修養科期間

立教174年6月1日～8月27日

### \*教養掛

3ヶ月間	三代温生	(大教会准役員・雲東分教会長)
1ヶ月目	内海安子	(島中分教会長)
2ヶ月目	仙田勉	(出雲川津分教会長)
3ヶ月目	藤井治喜	(福節分教会長)

### \*募集要項

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日午前10時に解散。

# こころの詩

鶴眞分教会長 寺下宏一さん

## ①ピンからキリ 2010年2月23日

- 一、嬉しいって？ 楽しいって？  
悲しいって？ 苦しいって？  
賢いって？ 頭悪いって？ 全部ぜんぶ  
ピンからキリまで そうよそうよ
- 二、お金持ちだって？ 貧乏だって？  
背が高かったって？ 低かったって？  
美人だって？ 不美人だって？ 全部ぜんぶ  
ピンからキリまで そうよそうよ  
気にしないで 過ごそうよ
- 三、幸せだって？ 悩んでみたって？  
暖ったかかったって？ 寒かったって？  
美味しいかったって？ 不味かったって？ 全部  
ぜんぶ  
ピンからキリまで そうよそうよ  
気にしないで喜ぶこぼう

## ④うつくしく 一〇一〇年二月二十六日

- 一、心の思いが目うつる 美しい物見えるのは  
あなたの心が美しい 水の流れに心して  
花を見ようよ野の花に  
自分の心が咲いてゐる

二、美しく思う心が美しい貴方を思う自分の心を

自分で褒めてやりたい 空の青さに心して  
雲を見ようよ雲の流れに

素直な心がついて行く

三、微笑みかける君の笑顔は

毎日勇んだ心の表れ

辛い中をも喜んで 春の草花そうかに心して  
萌え出づる 伸び行く心に

今青春の美しさ

## ⑥こえ(声・肥) 一〇一〇年二月二十八日

一、赤ちゃん生まれて泣く声出した

元気に生まれた赤ちゃん嬉し

授かったこの声一つ 宝もの

夫婦兄弟友達と

言葉一つで声かけあって

仲良く暮らそうこの人生を

二、真夏の田圃の稲穂が伸びた

肥えをかけましょう 野菜にも

子供等が大きくなるように声かけあって

声も又言葉ひとつで肥えとなる

親子の中も声一つ優しい肥えをかけましょう

三、世界の人間皆兄弟と教えてくれた人がいた

言葉は違うが声同じ

心が通うよ声一つ親の遺言兄弟仲良く

慎み合って助け合い感謝の心を忘れずに

## 十七の夏

一、土用の暑さに 稲背のびして

若かき君の すはだまぶしく

鳴くせみに 思いを重ねる

すぎゆく夏 十七の夏よ

二、ゆかたの君を さがしあぐねた

盆をどりの 夜のくらさに

月登ぼり わの中に姿をみつけ

三、なにかをもとめ なにかをうしない

生きてることの 意味をさがして

ひかれる恋に まどわされ

あつきあつき夏 十七の夏

## 花一輪

一、心に咲いた 赤い花

そんな情熱 顔に出す

そんなあなたが とてもすき

私もいつか ほほえんだ

二、心に咲いた やさしい花を

一輪つんで あなたにあげる

そんな私に なりたいと

顔に表らわし ほほみかける

三、心に咲いた 花ひとつ

わすれられない 思い出が

胸の内より わいてきて

せつない恋の 初まりと

思わづほろり なみだ顔

# こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「楽」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうござります。

準秀詠 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子 さん

苦の節も楽しみとなるこの教え

## ▼表紙の書

天場山分教会 役員 野津正樹さん

## 大教会だより

### Ⅱ教会指令Ⅱ

#### ◎神殿屋根葺替及附属建物増築・修築

並屋根葺替願

錦 洋 分教会

☆遷座祭 立教174年5月16日

☆鎮座祭 立教174年6月18日

☆奉告祭 立教174年6月19日

立教174年3月26日承認

#### ◎湯田原分で神殿落成奉告祭

湯田原分教会(高木昭祥会長)では  
4月10日大教会長様ご夫妻、役員先

生を迎え神殿落成奉告祭を執り行つた。当日は晴天の中、大勢の参拝者が詰めかけた。

#### ◎本部営繕ひのきしん

自 立教174年4月11日

至 立教174年4月20日

上 下 押 尾 啓 司

#### ※お詫びと訂正

本年3月21日発行の『かさおか第50巻第3号』「別席ひのきしん団参」記事、講師の先生の名前に誤字がありましたので、お詫びと訂正をさせて頂きます。

「誤」三井——「正」川島

## 訃報

小池宏一氏

久津分教会長

3月21日出直されました。

89才

渡邊勇喜氏

香地華分教会長

4月1日出直されました。

65才



詰所の玄関を掃いていると時々娘に話したことを思い出す。「あのな、特別にな、にをいがけいうて外へ行かんでいいんよ。その代わり日曜の朝にな、玄関の外を掃いて掃除してくれたりそれでいいんよ。」と言う。すると人が通りがかってこう思うのと違うやろか。「あらあ、今時珍し

いな、若い娘が外掃いてるやんか」「天理教の教会の子か、なるほどな」と…。そんな手前勝手なうまいこといかへんと言うやろけど、今頃若い娘が表を掃いているような姿を見たことがない。掃いているのは大抵お婆さんかおばさん。男もない。その中をうら若き美形？が心優しくほうきを使っているとそれは「トイレの神様」の歌ではないけど大きく言えば通りかかる人の心を洗う、美しい情景になるのではないか？大きいにをいがけになるか？まあ何も人がどう思おうとやることはやるんやけど、教会責任者としては好印象を与えてほしいと娘の成人よりも教会印象度アップを狙っている。：：：ちよっといやらしいな…：：：それにして僕少年時代(ちゃんとあります)は、子供が表を掃いたり、水をまいたり、豆腐やお揚げさん自身転車で売りに来たら「買っておいで」と入れ物を持って走ったものだ。まあお母さんに言いつけられてするんやけどその昔が何かしら良かったなあ。

(ひ)